

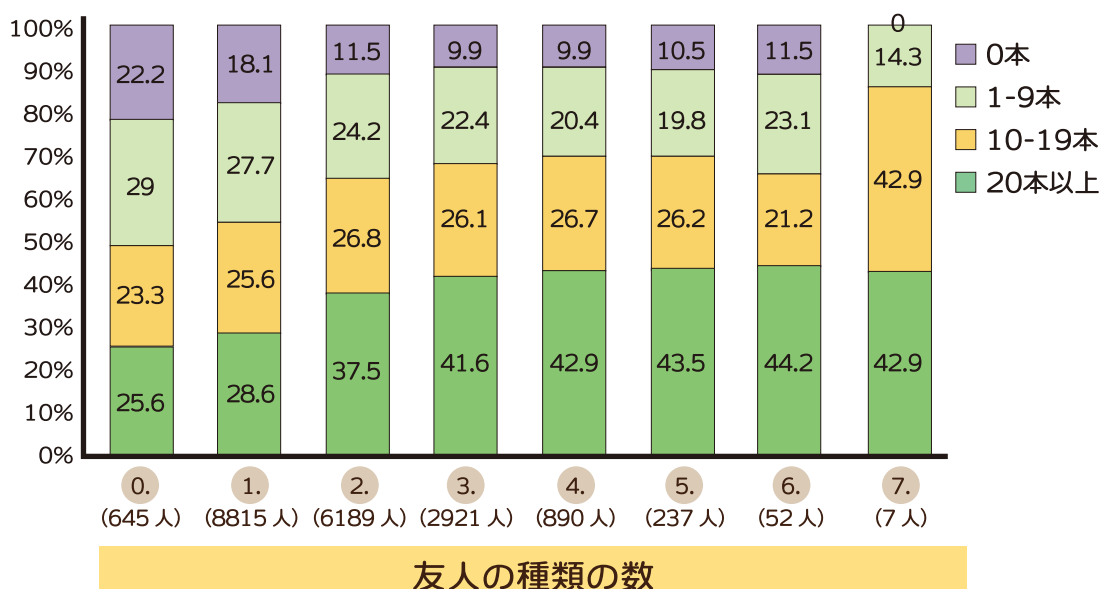
「友人の種類」が多い高齢者は、歯が多い

「～友人の種類が1つ増えると、歯が多い可能性が1.08倍～

友人からの「口コミ」で歯科医院を選んだり、デンタルフロスを使ってみたりと、私たちの行動は友人の影響をいくらか受けていると考えられます。持っている情報は、同じ背景の人々では似ているため、異なる背景の人々とのつながりが、新しい情報や行動を得る上で大切だと考えられます。そこで、「友人の種類」が多いほど、歯が多いかを検討しました。19,756人のデータを分析した結果、年齢・性別や糖尿病の既往などの歯に影響する要因や、友人と会う頻度や友人の数を考慮した上でも、「友人の種類」が1つ増えると、歯が多い可能性が1.08倍有意に高いことが示されました。歯科保健行動を考慮しても、1.05倍有意に高く、友人の種類は高齢者の歯の残存に関連していました。

高齢者にとって、歯科に関する製品や行動、受診環境は過去数十年で大きく変わりましたが、この変化への適応に友人の種類が関係していると考えられます。趣味の会などの交流の場で、保健教育などを実施するといった、ネットワークを活用した介入が有効かもしれません。

歯の本数と、友人の種類の数



友人の種類の数（「よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか」の質問への回答）

1. 近所・同じ地域の人、
2. 幼なじみ、
3. 学生時代の友人、
4. 仕事での同僚・元同僚、
5. 趣味や関心が同じ友人、
6. ボランティアなどの活動での友人、
7. その他、の有無を合計した、0～7点の点数

2016年9月発行

背景

友人とのネットワークを通じて、知識や行動が伝わっていくことが知られています。友人からの「口コミ」で病院を選んだり、友人が始めた趣味を自分もやってみる、ということはよくあることでしょう。実際に、友人が禁煙をすると自分も禁煙をする可能性が増えることなどが報告されています。しかし、持っている情報は、同じ背景の人々では似ているため、

異なる背景の人々とのつながりが、新しい情報や行動を得る上で大切だと考えられます。こうしたネットワークの「多様性」と健康との関係を調べた研究はまだ多くなく、歯科分野では私たちの知る限り初めてです。本研究では、友人の種類が多いほど、高齢者の歯が多いかどうかを検討しました。

対象と方法

日本老年学的評価研究プロジェクト (the Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES) の2010年横断調査データを分析しました。日本の65歳以上の地域在住高齢者に自記式調査票を郵送し（回収率＝66.3%）、本解析で用いた質問に対して19,756名から回答を得ました。目的変数は現在歯数とし、20本以上、10－19本、1－9本、0本の4段階で使用しました。友人の種類は、1.近所・同じ地域の人、2.幼なじみ、3.学生時代の友人、4.仕事での同僚・元同僚、5.趣味や関心が同じ友人、6.ボ

ランティアなどの活動での友人、7.その他、で質問をし、0～7点の友人の種類合計点を算出しました。また、年齢や性別、社会経済的状況（所得、学歴、最も長い職業）、婚姻状態、糖尿病・うつ病の既往、友人と会う頻度や友人の数の変数を考慮しました。歯科保健行動として、治療および予防のための歯科受診、デンタルフロスの利用、フッ化物配合歯磨剤の利用の変数を用いました。解析には順序ロジスティック回帰分析を用い、友人の種類が1つ増えるあたりの、歯が多いオッズ比を算出しました。

結果

19,756名の平均年齢は73.9歳（標準偏差＝6.2）で、54.1%が女性でした。友人と会う頻度や友人の数を調整した上で、友人の種類が1つ増えるあたり、歯が多いオッズ比は1.09（95%信頼区間＝1.07－1.12、p値＝<0.001）でした。さらにすべての変数を考慮した上でも、友人の種類が1つ増

えると、歯が多い可能性が1.08倍（95%信頼区間＝1.04－1.11、p値＝0.001）有意に高い結果でした。歯科保健行動を考慮しても、1.05倍（95%信頼区間＝1.02－1.08、p値＝0.002）有意に高く、友人の種類は高齢者の歯の残存に関連していることが分かりました。

結論

友人の種類が多いほど、高齢者の現在歯数が多い

という関連が示されました。

本研究の意義

高齢者にとって、歯科に関する製品や行動、受診環境は過去数十年で大きく変わりましたが、友人の種類が多いほど、新しい情報を得やすく、その時々新しい行動を身に付けていくのがはやかたと思えます。友人からの口コミや影響力は、無視できるものではなく、これを保健医療介入に活用する

ことが大切かもしれません。実際、JAGESプロジェクトが以前に実施した研究では、サロンに参加する高齢者は保健情報を多く持っていたことが示されています。趣味の会などの交流の場で、保健教育や口腔ケアの介入をするといった、ネットワークを活用した介入の可能性を、本研究は示唆しています。

論文発表

Aida J, Kondo K, Yamamoto T, Saito M, Ito K, Suzuki K, Osaka K, Kawachi I. Is Social Network Diversity Associated with Tooth Loss among Older Japanese Adults? PLoS One 2016;11(7):e0159970.

謝辞

本研究は、日本福祉大学健康社会研究センターによる日本老年学的評価研究 (the Japan Gerontological Evaluation Study, JAGES) プロジェクトのデータを使用し、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）、並びに、科学研究費補助金（22330172、22390400、23243070、23590786、23790710、24390469、24530698、24653150、24683018、25253052、25870573、25870881、22390400、22592327）、厚生老科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業、H22-長寿-指定-008、H24-循環器等（生習）一般-007、H24-地球規模一般-009、H24-長寿-若手-009、H25-健危-若手-015、H26-医療-指定-003（復興）、H25-長寿一般-003）、長寿科学振興財団長寿科学研究者支援事業、長寿医療研究開発費（N0:24-17、No:24-23）、などの助成を受けて実施した。記して深謝します。